



交通バリアフリーニュース

バリアフリー法に基づく 四国におけるバリアフリー化の進捗状況

（公共交通事業者等からの公共交通移動等円滑化実績等報告書の集計結果概要（平成 22 年度末））

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（以下「バリアフリー法」という。）第 53 条に基づく公共交通事業者等からの移動等円滑化実績等報告（平成 22 年度末における公共交通機関のバリアフリー化の状況）の四国における概要を以下のとおりお知らせいたします。

公共交通機関におけるバリアフリー化の進捗状況〈ポイント〉

◆全旅客施設（対象 11 施設）

・ 段差の解消	<u>100.0%</u>	（H21 年度末と 同）
・ 視覚障害者誘導用ブロック	<u>100.0%</u>	（H21 年度末より 7.7ポイント増加）
・ 障害者用トイレ	<u>90.0%</u>	（ 同 0.9ポイント減少）

※平成 21 年度対象施設は 13 施設

※障害者用トイレはトイレ設置施設数（10 施設。21 年度は 11 施設）に対する割合で、対象施設の変更による減少

◆車両等

・ 鉄軌道車両	<u>13.1%</u>	（H21 年度末より 2.5ポイント増加）
・ ノンステップバス	<u>19.5%</u>	（ 同 1.2ポイント増加）
・ 福祉タクシー	<u>693台</u>	（ 同 73台 増加）
・ 旅客船	<u>18.0%</u>	（ 同 2.4ポイント減少）

※旅客船は対象船舶の変更による減少

なお、平成 23 年 3 月 31 日に基本方針が改正（新基本方針）され、平成 32 年度までに、1 日当たりの平均的な利用者数が 3,000 人以上の全ての旅客施設について、原則としてバリアフリー化を実施する等の目標が掲げられましたので、平成 22 年度末において試算した四国における集計結果概要を《参考》として添付しています。

公共交通事業者等からの移動等円滑化実績等報告書の集計結果概要
(平成 23 年 3 月 31 日現在)

バリアフリー法に基づき、公共交通事業者等は毎年 5 月 31 日までに移動等円滑化実績報告書を提出しなければならないこととなっている。

○旅客施設(1 日当たりの平均的な利用者数が 5,000 人以上のもの)

〈段差の解消〉

旅客施設全体…100.0%(H21年度末100%)

	総施設数		移動等円滑化基準(段差の解消)に適合している旅客施設数		総施設数に対する割合			
	(目標値:100%/H22年)	H22年度末	H21年度末	H22年度末	H21年度末	H22年度末	対前年度増減	H21年度末
鉄軌道駅		10	12	10	12	100.0%	0.0%	100.0%
バスターミナル		0	0	0	0	-	-	-
旅客船ターミナル		0	0	0	0	-	-	-
航空旅客ターミナル		1	1	1	1	100.0%	0.0%	100.0%

1)「段差の解消」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第4条(移動経路の幅、傾斜路、エレベーター、エスカレーター等が対象)への適合をもって算定。

2)航空旅客ターミナルについては、障害者等が利用できるエレベーター・エスカレーター・スロープの設置はすでに平成13年3月末までに100%達成されている。

〈視覚障害者誘導用ブロックの設置〉

旅客施設全体…100.0%(H21年度末92.3%)

	総施設数		移動等円滑化基準(段差の解消)に適合している旅客施設数		総施設数に対する割合			
	(目標値:100%/H22年)	H22年度末	H21年度末	H22年度末	H21年度末	H22年度末	対前年度増減	H21年度末
鉄軌道駅		10	12	10	11	100.0%	8.3%	91.7%
バスターミナル		0	0	0	0	-	-	-
旅客船ターミナル		0	0	0	0	-	-	-
航空旅客ターミナル		1	1	1	1	100.0%	0.0%	100.0%

1)「視覚障害者誘導用ブロックの設置」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第9条への適合をもって算定。

〈障害者用トイレの設置〉

旅客施設全体…90.0%(H21年度末90.9%)

	総施設数		移動等円滑化基準(段差の解消)に適合している旅客施設数		総施設数に対する割合			
	(目標値:100%/H22年)	H22年度末	H21年度末	H22年度末	H21年度末	H22年度末	対前年度増減	H21年度末
鉄軌道駅		9	10	8	9	88.9%	-0.1%	90.0%
バスターミナル		0	0	0	0	-	-	-
旅客船ターミナル		0	0	0	0	-	-	-
航空旅客ターミナル		1	1	1	1	100.0%	0.0%	100.0%

1)「障害者用トイレの設置」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第13条~15条への適合をもって算定。

2)総施設数については、便所を設置している旅客施設のみを計上。

○車両等

	車両等の総数		移動等円滑化基準に適合している車両等の数		車両等の総数に対する割合			
	(目標値:約50%/H22年)	H22年度末	H21年度末	H22年度末	H21年度末	H22年度末	対前年度増減	H21年度末
鉄軌道車両		701	697	92	74	13.1%	2.5%	10.6%
バス		1,509	1,495					
低床バス	(目標値:100%/H27年)			388	362	25.7%	1.5%	24.2%
うちノンステップバス	(目標値:約30%/H22年)			294	274	19.5%	1.2%	18.3%
福祉タクシー	(目標値:約18,000台/H22年)			693	620	-	73台	-
旅客船	(目標値:約50%/H22年)	111	108	20	22	18.0%	-2.4%	20.4%

1)「移動等円滑化基準に適合している車両等」は、各車両等に関する公共交通移動等円滑化基準への適合をもって算定。

2)平成22年度末のバスの総数は、現時点での速報値である。

《参考》平成 23 年 3 月 31 日告示「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に照らした実績
公共交通事業者等からの移動等円滑化実績等報告書の四国における集計結果概要
(平成 23 年 3 月 31 日現在)

バリアフリー法に基づき、公共交通事業者等は毎年5月31日までに移動等円滑化実績等報告書を提出しなければならないこととなっている。この資料は、参考として新基本方針の目標に照らした形式で別途集計を行ったものである。

○ 旅客施設 (1日当たりの平均的な利用者数が3,000人以上のもの)

〈段差の解消〉

旅客施設全体…67.9%

(目標値:100%/H32年度末)	総施設数	移動等円滑化基準(段差の解消)に適合している旅客施設数	総施設数に対する割合
	H22年度末	H22年度末	H22年度末
鉄軌道駅	24	15	62.5%
旅客船ターミナル	1	1	100.0%
航空旅客ターミナル	3	3	100.0%

1)「段差の解消」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第4条(移動経路の幅、傾斜路、エレベーター、エスカレーター等が対象)への適合をもって算定。

〈視覚障害者誘導用ブロックの設置〉

旅客施設全体…85.7%

(目標値:100%/H32年度末)	総施設数	移動等円滑化基準(誘導用ブロックの設置)に適合している旅客施設数	総施設数に対する割合
	H22年度末	H22年度末	H22年度末
鉄軌道駅	24	20	83.3%
旅客船ターミナル	1	1	100.0%
航空旅客ターミナル	3	3	100.0%

1)「視覚障害者誘導用ブロックの設置」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第9条への適合をもって算定。

〈障害者用トイレの設置〉

旅客施設全体…62.5%

(目標値:100%/H32年度末)	総施設数	移動等円滑化基準(障害者用トイレの設置)に適合している旅客施設数	総施設数に対する割合
	H22年度末	H22年度末	H22年度末
鉄軌道駅	20	12	60.0%
旅客船ターミナル	1	0	0.0%
航空旅客ターミナル	3	3	100.0%

1)「障害者用トイレの設置」については、バリアフリー法に基づく公共交通移動等円滑化基準第13~15条への適合をもって算定。
2)総施設数については便所を設置している旅客施設のみを計上。

○ 車両等

(目標値:H32年度末)	車両等の総数	移動等円滑化基準に適合している車両等の数	車両等の総数に対する割合	
	H22年度末	H22年度末	H22年度末	
鉄軌道車両	約70%	701	92	13.1%
ノンステップバス(適用除外認定車両を除く)	約70%	1,509	294	19.5%
リフト付きバス(適用除外認定車両)	約25%	440	0	0.0%
福祉タクシー	約28,000台	-	693	-
旅客船	約50%	111	20	18.0%

1)「移動等円滑化基準に適合している車両等」は、各車両等に関する公共交通移動等円滑化基準への適合をもって算定。
2)平成22年度末のバスの総数は、現時点での速報値である。

その他、バリアフリー推進施策フォローアップ

(1)総合的な整備の推進

* 交通事業者、自治体、国等の連携等により、旅客施設や車両等のバリアフリー化が進みました。

<平成 22 年度中にバリアフリー化が進んだ主な鉄軌道駅>

☆段差の解消

- ・四国旅客鉄道(株) 3 駅 (阿波大谷駅、教会前駅、撫養駅)
- ・土佐電気鉄道(株) 2 駅 (高知城前、旭町一丁目停留場) 計 5 駅 (累計 117 駅)

☆視覚障害者誘導用ブロックの整備

- ・四国旅客鉄道(株) 5 駅 (阿波大谷駅、立道駅、教会前駅、金比羅前駅、撫養駅)
- ・高松琴平電気鉄道(株) 2 駅 (高松築港駅、片原町駅)
- ・土佐電気鉄道(株) 2 駅 (高知城前、旭町一丁目停留場) 計 9 駅 (累計 196 駅)

☆障害者対応型トイレの設置

- ・四国旅客鉄道(株) 3 駅 (宇多津駅、宇和島駅、大歩危駅)
- ・高松琴平電気鉄道(株) 2 駅 (湯元駅、高田駅) 計 5 駅 (累計 24 駅)

☆視覚障害者転落防止設備の整備

- ・四国旅客鉄道(株) 4 駅 (阿波大谷駅、教会前駅、金比羅前駅、撫養駅)
- ・高松琴平電気鉄道(株) 2 駅 (高松築港駅、片原町駅)
- ・土佐電気鉄道(株) 2 駅 (高知城前、旭町一丁目停留場)
- ・土佐くろしお鉄道(株) 1 駅 (有井川駅) 計 9 駅 (累計 229 駅)

<平成 22 年度中に導入されたバリアフリー車両等>

☆鉄軌道

- ・鉄道車両 (18 両) (累計 81 両)
- ・軌道車両 (0 両) (累計 11 両)

☆乗合バス

- ・ノンステップバス 24 両 (廃止 4 両) (累計 294 両)
- ・ワンステップバス 7 両 (累計 94 両)

☆福祉タクシー車両 73 両 (累計 693 両)

☆旅客船

- ・バリアフリー基準適合船 (廃止 2 隻) (累計 20 隻)

(2)運輸局における推進施策

①	バリアフリー推進体制の整備	* 鉄軌道バリアフリー推進会議及びバリアフリー推進四国地域連絡会議を開催しました。 ☆第 6 回鉄軌道バリアフリー推進会議 平成 23 年 3 月 10 日 ☆第 4 回バリアフリー推進四国地域連絡会議 平成 23 年 2 月 9 日
②	ソフト面のバリアフリー推進施策	* 小学生や交通事業者従業員等を対象にしたバリアフリー教室を開催しました。 <バリアフリー教室開催実績> ○平成 22 年 5 月 21 日 対象：小豆島町立星城小学校 5 年生 28 名 ○平成 22 年 7 月 12 日 対象：四国中央市立金生第二小学校 4 年生 32 名 ○平成 22 年 9 月 16 日 対象：丸亀市立城辰小学校 5 年生 76 名 ○平成 22 年 9 月 28 日 対象：さぬき市立津田小学校 5 年生 57 名

②	ソフト面のバリアフリー推進施策	<p>○平成22年10月 5日 対象：高知市立横内小学校 3年生 84名</p> <p>○平成22年10月18日 対象：高松空港エバ-サルゲザイ推進専門部会構成員ほか31名</p> <p>○平成22年11月26日 対象：三好市立三縄小学校 1～6年生49名、父兄31名</p> <p>○平成23年 1月26日 対象：松山空港内従業員 26名</p> <p>○平成23年 2月17日 対象：徳島阿波おどり空港内従業員 24名</p> <p>○平成23年 2月25日 対象：高知龍馬空港利用者促進利便性向上協議会構成員ほか21名</p>
③	段階的・継続的なバリアフリーの推進	<p>*平成23年2月9日、第4回バリアフリー推進四国地域連絡会議を開催し、スパイラルアップのための体制づくりを行いました。</p>
④	バリアフリー基本構想の作成支援	<p>*地域の重要な交通拠点となる1日の平均的な利用者数が4,000人以上の旅客施設を有し、基本構想作成について検討したいとの意思表示のあった自治体や、基本構想作成予定調査において”予定あり”と回答のあった自治体に、プロモーターを派遣しました。</p> <p><平成22年度プロモーター派遣実績></p> <p>○平成23年 3月23日 香川県綾歌郡宇多津町</p> <p>○平成23年 3月24日 愛媛県伊予市</p>
⑤	バリアフリー化財源の確保	<p>*バリアフリー関係補助事業等を活用し、旅客施設及び車両等のバリアフリー化が進みました。</p> <p><平成22年度バリアフリー関係補助事業等による実績></p> <p>○鉄軌道 ・交通施設バリアフリー化設備整備費補助 軌道駅1駅 （補助額） 4,743,333円</p> <p>○乗合バス ・生活交通路線維持費国庫補助金 ノンステップバス 12両 8,898,000円</p>

(3)交通事業者におけるバリアフリー推進施策

①	旅客施設及び車両等の整備計画	<p>*交通事業者や運輸局関係部との情報交換等により、交通事業者のバリアフリー推進計画の把握に努めました。</p>
②	ソフト面の対応	<p>*平成22年10月18日、平成23年1月26日、2月17日、2月25日に高松空港、松山空港、徳島阿波おどり空港、高知龍馬空港において、空港内の従業員等を対象としたバリアフリー教室を開催しました。</p>

消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、香川県の高松～土庄航路で、バリアフリー対応の高速艇を導入された運航事業者と、この航路の高速艇利用者にお話しを伺いました。



小豆島の概要

小豆島は瀬戸内海の東部に位置し、人口約 31,000 人、面積が約 153.3km²あり、瀬戸内海では淡路島に次ぐ大きな島です。島の行政は土庄町と小豆島町の 2 町からなっています。

島は温暖な気候風土に恵まれた環境のため、オリーブ、しょうゆ・もろみ、佃煮、ごま油、そうめんなどの生産が盛んで、全国有数の生産地となっています。特にオリーブは、国内栽培の発祥地として広く知られ、香川県の県花・県木にも指定されています。

観光では、小説「二十四の瞳」の舞台となった「岬の分教場」や、日本三大渓谷美の一つ「寒霞渓」、世界一狭い海峡としてギネスブックに認定された「土渕海峡」などの名所があります。

「小豆島ふるさと村」では毎年9月に全国各地から大きなカボチャが集まる「日本一どでカボチャ大会」が開かれ、優勝者には日本代表として世界大会に参加する権利が与えられます。

小豆島への交通手段は、関西方面からは、姫路～福田・神戸～坂手の2航路、夏期季節便として大阪～坂手航路(現在休航中)があります。岡山県からは、日生～大部・岡山～土庄・宇野～土庄の3航路、また、香川県(本土)からは高松～土庄・高松～池田・高松～草壁の3航路があります。

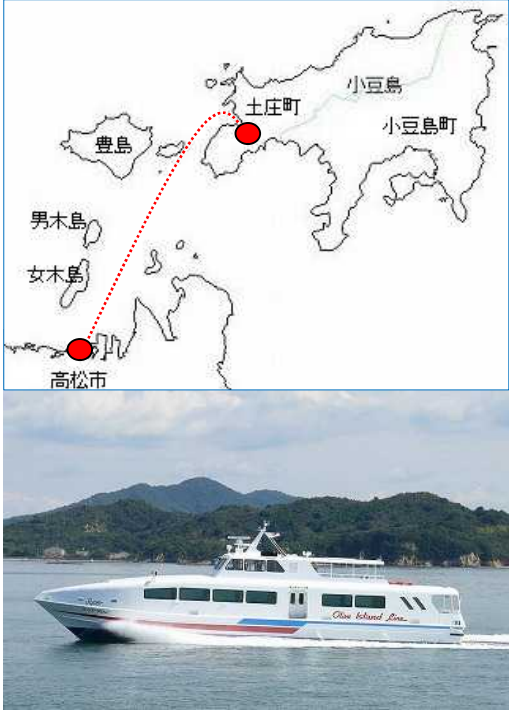
船舶・航路の紹介、事業者インタビュー

高松～土庄航路は、小豆島急行フェリー(株)が片道 22km をフェリーと高速艇で運航しています。

フェリーは、1日15往復あり、片道所要時間は約60分です。高速艇は、2隻運航で1日16往復あり、片道所要時間は約30分(又は35分)となっています。

高速艇・スーパーマリン概要

用途	旅客船	船質	軽合金	航行区域	平水区域
総トン数	95トン	全長	29.0m	全幅	5.8m
深さ	2.3m	航海速力	27ノット(時速約50km)		
就航日	H23・10・5	旅客定員	140人(座席115人・立席25人)		



◆新船スーパーマリンは従来と比べてどんな船ですか？

従来船が老朽化したことに伴い、より小型の船に入れ替えることで、燃料やメンテナンスにかかるコストを削減(従来船に対し燃料費が25～30%減)でき、環境にも優しいエコ対応のバリアフリー対応船を導入できました。

◆利用者からの反応や利用層は？

就航後約2ヶ月ですが、体の不自由な方や足腰の悪い高齢者からは、「通路が広く段差が無くなって良くなった。」「車いすのまま乗船できトイレへ行くのも自ら移動して通路を通れるようになったので利用しやすくなった。」といった感想をいただいています。

バリアフリー対応船となったことで、盲導犬同伴の方や車いすの方の利用機会が増えています。

また、高速艇は移動時間が 30 分と短いので、平日は通勤や通院の利用が多く、特に朝夕の便は船内が混雑しています。

利用者からの声

スーパーマリンの利用者からは、「前の船に比べて、通路が広いので移動しやすくなった。」、「手荷物を持っていても船内を移動しやすくなった。」、「同じ航路を走っている別の船より、バリアフリー船のスーパーマリンを選んで乗るようにしている。」、「通路が広いし段差が無くなって歩きやすい。」、「新船になってからは足腰への負担が少なくなった。」など、バリアフリー対応となったことで、特に体の不自由な方や高齢者からは利用しやすくなったとの声が多く寄せられました。

一方で、「座席数が少なくなり、座れなくなった。」、「船が小さくなった。」などといった声も聞かれました。

インタビューを終えて

高速艇は高松港に到着(11:50)後は桟橋に停泊中で、次の便の出航(13:00 発)までは、乗務する船員さんの休憩時間になっていました。

船は、前方と後方に分かれて客室があり、窓が大きく通路も広々とした明るく快適な船内で、地元の人に交じって小豆島のガイドブックを手にした旅行者と思われる夫婦の姿も見受けられました。

出航後は、女木島・男木島を横目に、備讃瀬戸東航路を行き交う大型船(全長 50m 以上)の船舶を見ていると、早くも、土庄港到着の入港案内が聞こえてきました。

瀬戸内の島々を眺めながら過ごすには少し短く感じましたが、日々、通勤・通院等で利用されている方にとっては、快適な時間となりそうです。

利用者に話を伺って、バリアフリー化を必要としている方から、従来船(バリアフリー未対応)と比べ乗りやすくなったとの感想を多く頂き、バリアフリー船の必要性を強く感じました。

今後、さらに高齢化社会が進むなか、ハード面の整備とあわせ、ソフト面における高齢者や障害者等への理解と協力、すなわち「心のバリアフリー」についても一層の推進をまいります。

インタビュー実施日:平成 23 年 12 月 1 日(木)・聞き手:藤井、本木



バリアフリー客席



障害者対応トイレ



バリアフリー
一出入口



車いす
スペース



バリアフリー
乗降設備

バリアフリー教室・バスの乗り方教室を開催

藍住町立藍住西小学校

平成23年10月26日(水)、四国運輸局と徳島運輸支局は、藍住西小学校において「バリアフリー教室・バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には藍住西小学校4年生114名が参加。バスの乗り方教室では、徳島バス株式会社の協力を得て、ノンステップバスを校内に持ち込み、整理券の取り方や料金表の見方など基本的なバスの乗り方などを学習しました。

また、バリアフリーに対応したノンステップバスの特徴を学習したり、車いす利用者の乗降介助の仕方を見学しました。

バリアフリー教室では、車いす講師及び社会福祉法人藍住町社会福祉協議会職員の指導のもと、車いす利用者疑似・介助体験を行い、社会福祉法人凌雲福祉会職員の指導のもと、視覚障害者疑似・介助体験を行いました。

車いす体験では利用する人と介助する人の大変さを体験し、視覚障害者疑似体験では目の不自由な方の介助方法を教わり、アイマスクを着用して移動する困難さを体験しました。

参加者は講師の話の聞いたり実際に疑似・介助体験をすることによって、相手の立場にたって行動することの大切さを学びました。



開講式での校長先生挨拶



車いす利用者の疑似・介助体験



視覚障害者の疑似・介助体験



バスの乗り方教室

徳島市立上八万小学校

平成23年11月29日(火)、四国運輸局と徳島運輸支局は、文化の森総合公園において「バリアフリー教室・バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には上八万小学校4年生56名が参加。バスの乗り方教室では、徳島市交通局の協力を得て、ノンステップバスを文化の森総合公園に持ち込み、整理券の取り方や料金表の見方など基本的なバスの乗り方などを学習しました。

また、ノンステップバスの特徴を学習したり、バスへ乗降する車いす利用者の介助の仕方を見学しました。

バリアフリー教室では徳島県立障害者交流プラザ・視聴覚障害支援センター、社会福祉法人青香福祉会、徳島市社会福祉協議会の講師の指導のもと、車いす利用者疑似・介助体験と視覚障害者疑似・介助体験を行いました。

車いす体験では利用する人と介助する人の大変さを体験し、視覚障害者疑似体験では目の不自由な方の介助方法を教わり、アイマスクを着用して移動する困難さを体験しました。

参加者は講師の話の聞いたり実際に疑似・介助体験をすることによって、相手の立場にたって行動することの大切さを学びました。



講師がバスの乗り方を説明



講師が車いすでの介助方法を説明



視覚障害者の疑似・介助体験



児童代表へ修了証を交付

四国運輸局が開催していますバリアフリー教室・バスの乗り方教室は、自治体、社会福祉協議会、障害者の方、公共交通事業者等から、後援・協力をいただき開催しております。

10～12 月に開催した教室では次のとおりです。

バリアフリー教室・バスの乗り方教室

（平成 23 年 10 月 26 日開催・藍住町立藍住西小学校）

後 援：徳島県、藍住町、藍住町教育委員会

協 力：社会福祉法人凌雲福祉会、社会福祉法人藍住町社会福祉協議会、
徳島バス株式会社

バリアフリー教室・バスの乗り方教室

（平成 23 年 11 月 29 日開催・徳島市立上八万小学校）

後 援：徳島県、徳島市、徳島市教育委員会

協 力：社会福祉法人徳島市社会福祉協議会、徳島市交通局、
徳島県立障害者交流プラザ・視聴覚障害者支援センター、
社会福祉法人青香福祉会、財団法人徳島県建設技術センター

《ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。》

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せください。



〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

[四国運輸局ホームページもご覧ください](#)

<http://www.tb.skt.mlit.go.jp/shikoku/>

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心にして、4 県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域の NPO の方にお送りしています。

このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。